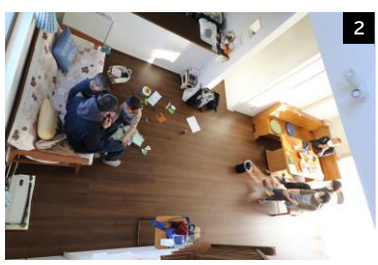
HaNEW LIFE

退職後のアフターライフとして娘家族との〝半同居〟暮らしを実現

仕事の都合で、人生の大半を都内で過ごしてきた澤さんご夫婦。退職を契機に移住を決意し、にぎやかな一歩を踏み出しました。



1.澤さん夫婦（右）と長女家族（左）。共有する時間が長いので、全員わが家のような感覚でリラックスできます
2.孫の成長を見守れることも、半同居暮らしの魅力
3.広いお庭は子どもたちの絶好の遊び場に

暮らしの変化が心の変化につながる

澤さんご夫婦の自宅は、長女の自宅から約700メートル。孫の通学する姿を見送ることから二人の朝が始まります。

「以前も車で約1時間という距離感でしたが、今は徒歩で会いに行けます。おかげで孫との交流は増え、娘と助け合う機会も多くなりました」

マンション暮らしの長かった二人ですが、移住先として戸建て物件を購入。気軽に外出もできるようになりました。

特に多加志さんは〝羽生市の現状を後世に残したい〟という想いで、カメラ片手に地域と積極的に交流。いつしか自身に思わぬ変化があったといいます。

「土に触れることすら好まなかった私が、米づくりに参加させてもらうように。自然と体調も良くなりました」

60代で大きな転機を迎えた澤さんご夫婦は、暮らしの変化を楽しみながら、第二の人生を謳歌しています。

移住提案書と題した次女からのラブレター

仕事の都合上、東京23区内を中心に生活拠点を構えることが多かった澤さんご夫婦。多加志さんが退職した後も、当時暮らしていたマンションに住み続けようと考えていましたが、陽子さんからある提案書（ラブレター）が…。予想外の展開に驚きを隠せませんでした。

「長女が暮らす羽生市へ移住することのメリットや将来のシミュレーションが詳細に記されていました。その熱意に私たちも心が動かされたんです」

実際に移住した今、半同居暮らし※のすばらしさを改めて実感。なじみのない土地でしたが、移住者に対して親切な方が多く、人と人の距離感の近さが助けになったと当時を振り返ります。

「最初は不安もありましたが、地元の方が手を差し伸べてくれたので、短期間で馴染めました。感謝しています」

※長女家族と同居に近い状態

Profile

澤多加志（さわたかし）・祐子（ゆうこ）さん

埼玉県川越市から移住（2018年）

夫：多加志さん（71歳）、妻：祐子さん（67歳）、次女：陽子さん（36歳）の3人家族。
多加志さんは2019年の退職まで鉄道関係の仕事に従事。主に東京都中野区や豊島区などで暮らし、仕事に打ち込んできた。
【長女家族】夫：南博宣さん（41歳）、妻（長女）：芙美子さん（41）、長男：柊羽さん（6）、次男：杜和さん（4）。